

住吉小学校エリア(矢崎小学校、南町小学校)  
特別支援教室だより NO.4

# ひばり



令和5年7月13日  
府中市立住吉小学校  
拠点校校長 木下 和紀

「ひばり」教室の1学期の指導が終わりました。そして、間もなく学校も1学期が終わろうとしています。無事に終えることができるのも、保護者の皆様、在籍校の先生方、「ひばり」の教育活動へのご理解とご協力のおかげです。ありがとうございました。

子供たちにとって待ちに待った夏休みが始まります。夏休みにしかできないこと、体や手を動かすことにたくさん取り組んで、夏休み明けに元気に「ひばり」に来てほしいと思います。

報告書を各家庭と在籍校にお渡しいたします。夏休みの過ごし方や2学期以降の手だてや目標をたてる際のヒントとして、役立てていただけたらと思います。また、医療機関や放課後デイサービスなどの専門機関で1学期の様子を伝えるときにもご活用ください。



## ☆今後の予定☆

9月 1日(金)以降の通室曜日に通室開始  
10月10日(火)月曜通室児(住吉)→振替通室  
火曜通室児(矢崎)→指導なし  
10月18日(水)指導なし

## 《授業参観》

住吉小 10月30日(月)  
矢崎小 10月31日(火)  
11月 1日(水)  
南町小 10月20日(金)  
10月26日(木)



## ☆2学期最初の持ち物☆

連絡ファイル(夏休み中はご家庭で保管をお願いします。《ご家庭より》の欄には夏休みの様子を御記入ください。)

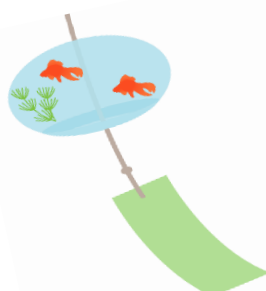
生活スキルチェック表(個人面談でお渡ししたものをチェックしてご提出をお願いします。)

※他の持ち物については、いつも通りです。よろしくお願いします。

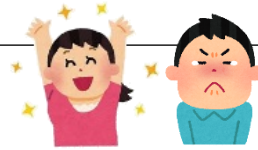


## ☆巡回心理士について☆

各校の巡回心理士の方が各学校を月1回程回っています。在籍学級や「ひばり」での子供たちの様子を観察していただき、在籍担任や「ひばり」教員が助言をいただいています。保護者の方にお知らせすることがあればお伝えします。



# ☆6・7月の学習から☆



## 気持ちを表す言葉

「気持ちを表す言葉」には、どんな言葉があるかという知識的な学習から始めました。右図の中の幾つかをみんなで確認した後、大きく二つの気持ち「いい気持ち」「いやな気持ち」に分けました。また、「どきどき・びっくり」はどちらにもあることを確認しました。

いいきもち😊					
どきどき	おもしろい	きもちがいい	ほっとした	まんぞく	あんしん
びっくり			すき	スッキリ	うれしい
					わくわく
					たのしい

いやなきもち😞					
どきどき	はずかしい	むずかしい	つまらない	かなしい	いらいら
びっくり		こわい	しんぱい	ざんねん	くやしい
					「まる
					さびしい

その後、ゲーム活動を通して実際に言ってみる学習をしました。（「黒ひげ危機一発」「気持ちの輪っか取り（椅子取りゲームに似たもの）」）剣を刺す前や人形が飛び出したとき、輪っかに入れなかったときの気持ちを言ってみました。簡単に言えるときもあれば、悔しさや悲しさから言葉にできないときもありました。言えない、分からないときは、右図から選んだり、教員から助けってもらったりしながら、自分の気持ちを言葉にしました。今後も「気持ちの言葉」を意識させながら、学習を積み重ねていきます。おうちでも、投げ掛けていただけるとより力が伸びると思います。

## 困ったときの対処法（フライングキャッチャー作り）



今回は、授業中、困ったときにどうしたらいいかの対処法をみんなで考え、もの作りを通して対処法を使う学習をしました。まずは、「ひばり劇場」と称して、教員が子供役になり困った場面を再現しました。劇を見て、対処法をみんなで考えました。困ったときは①友達の様子を見る②友達に聞く③先生に聞くといいことを確認しました。

実際の「フライングキャッチャー（紙製のフリスビー）作り」では、普段さりげなく声をかける教員も、あえて声をかけなかったり、判定員と称する教員が○×の判定を一人一人にしたりと、少し厳しめの対応で意図的に困らせる場面を作りました。子供たちは、作り方が分からなくなると「うーん」と悩みながら、ちらりと友達の方に目を向けたり、「先生どうやるの?」と聞いたりすることができました。どうしても見たり、聞いたりしたくないという子供もいました。その気持ちは尊重しながら、①～③の中から選ぶよう促しました。子供たちが困る場面は、他にも多くあります。今後、そういう時にどうしたらいいのか、その都度一緒に考えていきます。



## 「お手伝いをしよう」

7月の学習では、お手伝いについて話題にしました。子供たちからは、「家の片付けを頑張っている。」「お茶碗を運んだ。」「洗濯物を干したり、たたんだりしている。」など、日頃からお手伝いをしている様子が伝わってきました。立派ですね。夏休みは家族の一員としてお手伝いができるいいなと思います。お手伝いは、「家族のみんなの役に立てた」と本人が実感できる場所がいいです。また、将来の自立にもつながります。どの子達も夏休み中に取り組みたいお手伝いについて一生懸命に考えました。ぜひお子さんと相談して取り組ませてみてください。その時は、初めからうまくできなくても目をつむり、やる気を尊重してもらえるといいと思います。